

活動名：第11回福島空港公園杯8人制ジュニアサッカーフェスティバルU10

日程：令和2年11月3日（火祝）

会場：福島空港公園緑のスポーツエリア多目的運動広場（天然芝）

参加：E4（4年生8人）

帯同：設楽、佐久間コーチ

結果：準優勝/5チーム中

報告：設楽

リーグ戦

VS 中央ドリマ 0:0

VS アーレG・E3 13:0

VS 岩根SSS 1:1

VS 小野FC 15:0

6月6・7日に開催予定であったこのフェスティバルでしたが、コロナ禍により延期し、11月は天然芝を休ませる時期（～4月まで）ですが、公園側と調整して何とかこの日程で開催することができました。

この空港公園の芝生は、非常に管理が行き届いているので、最高のピッチで子どもたちは試合をすることができました。

私は今大会、U10の部のE4クラス4年生8人を率いてフェスティバルに挑みました。あいにく先日の橋本杯で怪我をした創太君が出場できなくなり、競技人数8人ぴったりの参加者で交代がない厳しい状況でした。

子どもたちの目標は「優勝」でした。試合経験が少ない子たちですが、やはり目標は「優勝」したいという気持ちでしたので、交代要員がない中、不安もありましたが、私もその気持ちに伝えるため、子どもたちに「今日は交代がない」、「諦めてしまうプレーはしない」、「走りきる」、「相手のボールを奪いにいかないなど諦めてしまうと仲間に迷惑をかけてしまうこと」、「4試合を全てやりきって欲しいこと」を伝え挑みました。

毎回ですが、試合前のポジション選定でキーパー選びに苦労します。

アーレはキーパーがないので、ぶつけ本番ポジションとなります。

ある程度キャッチなどができそうな子にお願いしていますが、キーパーをやりたい子もいて、その子ばかりにやってもらおうとフィールドの経験ができなくなるので、平等にできそうな子をGKに選んでお願いしております。

そのような悩みから今大会も即席キーパーに各試合抜擢し、フィールドは様々なポジションを各自与えて経験してもらおう布陣で挑みました。

初戦は、今大会で優勝した「中央ドリマ」さんでした。

試合前の各チームの子の様子を見てドリマさんが強そうだと判断し、この試合が優勝を左右する戦いになることを予想し、試合に挑みました。叱咤激励をしながらドリマさんの怒濤の攻めを何とか無失点でしのぎ、幾度か得点のチャンスもありましたが得ることができず引き分けで終わりました。よって、これで他チームとの対戦結果（得失点差）で、とにかく得点を多く取らないと優勝ができないという状況になりました。

二戦目は、アーレ同士の対戦ですが、普段の練習時の紅白ゲームのような様子では無く、子どもたちは真剣勝負で挑みました。3年生とガールズのアーレG・E3チームも頑張っていました。やはり学年の差は大きく大量得点の試合になりました。

三戦目は、岩根SSSさんでした。元気があるチームだったので、やりづらい様子でしたが、前半から得点できる場面も多々あり、1点先制から前半終了間際に失点をしてまさかの同点。後半は果敢に攻めましたが、岩根さんの守りが堅く同点となり、大会を振り返るとこの試合で勝利していたらみんな目標であった「優勝」ができたのにと残念で仕方ありません。

最終戦は、小野FCさんでした。低学年が主体のチームだったので、自分たちのやりたいプレーを存分に発揮し、大差で勝利することができました。

以上の四試合を終えて、やはり岩根SSSさんとの試合で引き分けたことが今回の準優勝という残念な結果となってしまいました。

子どもたちは優勝を目標として大会に挑みました。今、自分たちが持っている全てのチカラを出してくれたと思います。私も勝たせてあげたくて、大きな声で叱咤激励をしましたが、試合中に急に上手になるはずもなく、日々の練習の積み重ねの結果だと思っています。今年のアーレの4年生以下は大会数も少なく、試合の戦術もまだ伝えきれていない中、他チームは試合の経験があり攻め方や守り方をわかっていますが、アーレの子どもたちは個々のスキルをもってしっかりと戦っていたことは素晴らしいと思います。

私たちコーチたちはチームの結果ではなく、子どもたち個々について何が足りない技術だったか、通用していた技術は何であったのかを見つめ直し、今後の練習で伝えていきたいと思っています。

主な課題

- 浮き球をヘディングで前へ跳ね返す技術

- 一対一での守りで、相手に飛び込んで一発で抜かれる
- 一試合を走りきる体力
- シュートの時、思いっきり蹴るのではなく、GKのいないところへ流し込む技術
- 利き足以外で蹴ることができる技術

今大会を振り返ると、E3クラスも含めて個々の日々の練習量で大きく差が開きだしてきていると思います。特練に参加している子、家で練習している子は試合でも相手と戦えるようになっています。10歳～12歳の時期は「ゴールデンエイジ」といって、人生の中で何事も即座に習得できる時期と言われていています。この時期にどれだけ練習をしたかで将来のサッカーのみならず運動神経に影響するので、練習をなるべく休まず、自分の努力を惜しまず、両親のご協力の下、頑張ってもらいたいと思います。

最後に、大会参加チームの皆様、ご参加をありがとうございました。また、試合終了後にゴールなどの撤去など自らお手伝いをいただき感謝いたします。ご父兄の皆様は、コロナ感染が心配な環境の中でご理解をいただき、子どもたちを参加させて頂き、暖かい応援をありがとうございました。

コーチ：設楽



